



新編 五十年 三

A13  
4437  
3







遠山奇談卷之三

○才十一章

小加へうきびゆり  
深山のゆき... 暮のこけとひのあけ

らく小畑村奥山平をたつを交へ再びそのまゝとあぐ  
のこもゆき... 中ふの暮ま出あひたるこ... と...  
平をたつ... 危と... ち... ち... ち... ち...  
に... ち... ち... ち... ち... ち...  
七ひ... 七ひ... 七ひ... 七ひ... 七ひ...  
う... ち... ち... ち... ち... ち...  
か... ち... ち... ち... ち... ち...

遠山奇談卷之三



五つねどもとてとてねがふとわづらふたたりはな  
 ちかきかりがほいひそふ常りしあんえんがはふ推草と  
 いふむかひつあふも暮にまぢり世にせんくはぢとて  
 おそつくとぞまゐる今又母のくごほがかりけり  
 ありてうそ不富(ふゆ)くろそれお付けありの山(やま)にほく  
 おされん藤子(ふじこ)を困(こ)めて月(つき)おするく山中(やまなか)みく  
 けりあるしあひく方暮(かたぐり)も犯(とが)する今(いま)く今(いま)あ  
 れドわづらひのくろふもやまひていけくれくま  
 ちかきかりがほいひそふ常りしあんえんがはふ推草と  
 いふむかひつあふも暮にまぢり世にせんくはぢとて  
 おそつくとぞまゐる今又母のくごほがかりけり  
 ありてうそ不富(ふゆ)くろそれお付けありの山(やま)にほく  
 おされん藤子(ふじこ)を困(こ)めて月(つき)おするく山中(やまなか)みく  
 けりあるしあひく方暮(かたぐり)も犯(とが)する今(いま)く今(いま)あ

ともけ月(つき)のち小(こ)遠(とほ)るくつらとたふはるぐのお  
 かりとてまづくつれと休息(やすみ)しとまり

○弟(あに)十三章(じゅうさん) ちくづれふあは山(やま)七(しち)卷(まき)の幸(さい)

卯(う)月(つき)十二(じふに)日(ひ)あもろりくぶ修(しゆ)少(せう)青(せい)崩(ぼん)山(ざん)へ入(い)んとり  
 いづれも是(こゝろ)をちやまきしれん少(せう)ふつとまじあるも  
 徳(とく)なるふと野(の)松(しょう)寺(じ)して道(みち)理(り)むく  
 ちかきかりがほいひそふ常りしあんえんがはふ推草と  
 いふむかひつあふも暮にまぢり世にせんくはぢとて  
 おそつくとぞまゐる今又母のくごほがかりけり  
 ありてうそ不富(ふゆ)くろそれお付けありの山(やま)にほく  
 おされん藤子(ふじこ)を困(こ)めて月(つき)おするく山中(やまなか)みく  
 けりあるしあひく方暮(かたぐり)も犯(とが)する今(いま)く今(いま)あ

日本(にっぽん)無(む)双(じゆう)の大(だい)伽(が)藍(らん)とてびとるの佛(ぶつ)門(もん)実(じつ)のなまあり

應(おう)墜(たい)惡(あく)道(どう)必(かならず)墜(たい)空(くう)の隣(とな)骨(こつ)を一(いち)善(ぜん)のこられく



且求井下仁衆生の利益にあづけしめよと云  
 せらる。はさうけうこれ火のためふ失しそ力及ぶと  
 せらる。我が身とてさうさなりけのあふこれぞまじり  
 けり。めいさつめいぜし彼大伽藍再び建つ人のた  
 たらぬ。徳と蒙り恩と謝する人。道のおしぬ。一  
 つら。さうふ。其佛の衆生とあらねば。まじりか  
 徒因せらる。一。一念衆生。一。一。既。まじり  
 ら。衆生と捧ぐ。又。初。思。唯。の。修。行。と。う。な。ま。い。そ。れ  
 難。恐。能。恐。の。さ。ふ。在。縁。一。あ。る。は。い。つ。も。さ。う  
 あ。せ。ら。る。一。い。ち。も。そ。今。の。日。の。く。の。ま。ま。い。と。あ。ら。れ。し。

衆生なりけふか。いづれの正覺うじとちらふ。真正是成  
 徳。一。い。ち。も。さ。う。べ。の。疑。う。あ。ん。け。う。れ。と。あ。い。は  
 ね。骨。碎。身。も。も。い。ち。も。今。の。時。に。あ。ん。は。い。も。地。の。若  
 し。ふ。く。べ。の。火。候。も。あ。い。だ。う。い。う。さ。る。悪。鬼。邪。道。の  
 障。碍。と。か。た。も。祖。師。の。ゆ。き。も。さ。う。べ。無。同。地。統。の。業。を  
 小。の。御。恩。と。さ。う。べ。さ。う。べ。の。事。ふ。身。と。い。ち。も。九。牛  
 が。一。毛。も。佛。母。の。徳。り。う。ま。い。あ。う。れ。ば。あ。ま。り。を。い。ち。も  
 衆。と。い。ち。も。さ。う。べ。の。同。行。と。い。ち。も。さ。う。べ。の。田。里。の。あ。ま。り  
 と。い。ち。も。さ。う。べ。の。十。余。丈。の。谷。川。と。あ。ま。り。の。あ。ま。り。を  
 洲。信。洲。の。さ。う。べ。の。長。河。と。い。ち。も。さ。う。べ。の。長。河。の。さ。う。べ。の。あ。ま  
 り。



















有る一々一々木の枝小橋とけける流丸ふよ申する人の  
 取髪さびけけるさふふりけが作やいひさるれぬ  
 ふ氣終せぬざりかりかゝるをさうつけいあまを  
 ろーそれとせよめれうせよ又頭とちげとれ  
 ともれおふりしとと再建しよと志氣胸ふせり  
 せれがさるぬ男とと本やあんとあせりものこら  
 もゆり結しや漢が仲おれ二人のれとけとせ  
 たるめの中いやせしとくものぞく遠入し化生のれ  
 かつあふさるぬおくせしとくものぞく遠入し化生のれ  
 んといふもれもれしとくものぞく遠入し化生のれ

山男  
 永嘉記曰  
 安国縣有  
 山鬼形如  
 久而炙石  
 蟹食人不  
 敢犯之能  
 冷久病者  
 海録嶺南  
 事曰嶺南  
 有物野放  
 曰山文雌  
 曰山文雌  
 秦曲山姑  
 トイフモ  
 起テカカフ  
 ベレ









心よりなれば天地もこころ悪鬼神皆さぐくおそろく  
諸天善神しぐくもろる帝に守りくも仰ら  
又天神地祇のみぞぐく善佛の人とちりも亦  
己跡をせらりしは是は歎き事ほはれぬ  
利益と捨後くればいふくはわづか生類いふ  
とまみくまろぶく張る

○才十五章

きんごんの家にあり  
まごまごのたのしみ

夏の昔ふりく池に山ゆなればねむれ  
又いふ樹二本とるる是をこの本と云ふなり  
ふよのくせんちりしはよふ山栗内の人れりふ

さうらよきごんの家ありはよむいふる者うるべし  
みまききごんとておそれるふれとをがしらにそれ  
鬼のふあはれは木地りさつりとする  
着たつしよふのくと奥ふいはるるくつひとふ  
きんごんはよあまざれておほしげふおひげそれ  
たりくしごれとて体とそまごぐる木地りの着  
もよるくもかきふるふりさるぐれおごり  
さうらに木地りのくかれば各もあつとさひ  
かたのさるび木地りと同一にみされ麻をさつ  
ふよえろるたり  
けいごんはつひのその下に大栗木



山崎山崎山崎



山崎



山崎山崎山崎

山崎



しつとせと安ん置れどくまれば歌にけり  
枕をうつふ一床とわしあれば本信村しどはは  
は山いづれよよ糸の流ありく後景より中まほは  
日新尾山とよ庵々るよ美使つれぬこの大うだの  
すくゆに人のゆきもきしあど八里中とけ入  
ゆのころびあともあつに險難とよのぞてやしくこ  
びあをん付しぞ糸立よりなればいつの比らうお雪  
にさくされ榎の沈中きく  
くも芥とりつがくあづりしれがみまきとす  
時いつるぞく松くせくるふ長と九回幅や人あす

こらくしつとせと安ん置れどくまれば歌にけり  
材佛神の加板力うくまれの徴志と新し  
くまのありむきも糸立よりなればいつの比らうお雪  
中くみらだと保つふよ糸立よりなればいつの比らうお雪  
あうしふとせと安ん置れどくまれば歌にけり  
そるふのよぬいやれおあいのれやうとせと安ん置れどくま  
こくは時とうららら鞍羊多あつまり岩とくま  
てたぶてのよぬいやれおあいのれやうとせと安ん置れどくま  
とくはしお平七おまともく食ふおまともく食ふおまともく  
くくまらるるに鞍羊多あつまり岩とくま







